



A woman with red hair and blue eyes is screaming in distress. She has tears streaming down her face and her mouth is wide open. She is surrounded by numerous tentacles of a light green color, which are wrapped around her body and pulling at her skin. The background is a textured, yellowish-brown color. Overlaid on the image is Japanese text in a stylized font.

『こんなはずじゃ
なかつたのに』



いやああああ
ああああつ！

痛い！やめて
やめてよ！



なんで「んな」と
あ…ああつ！

こんなのはレイプじゃない
何…考へて…るのよ！

やめつ…ああつ！
んんつ…ひぐづ！

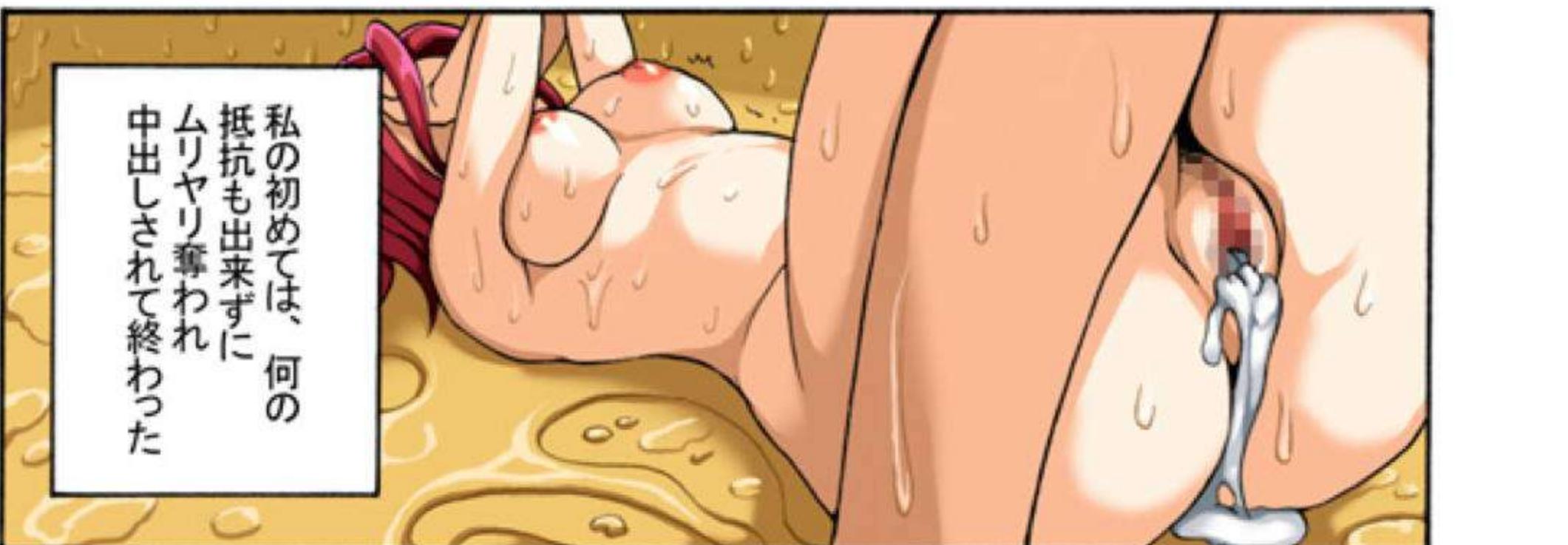
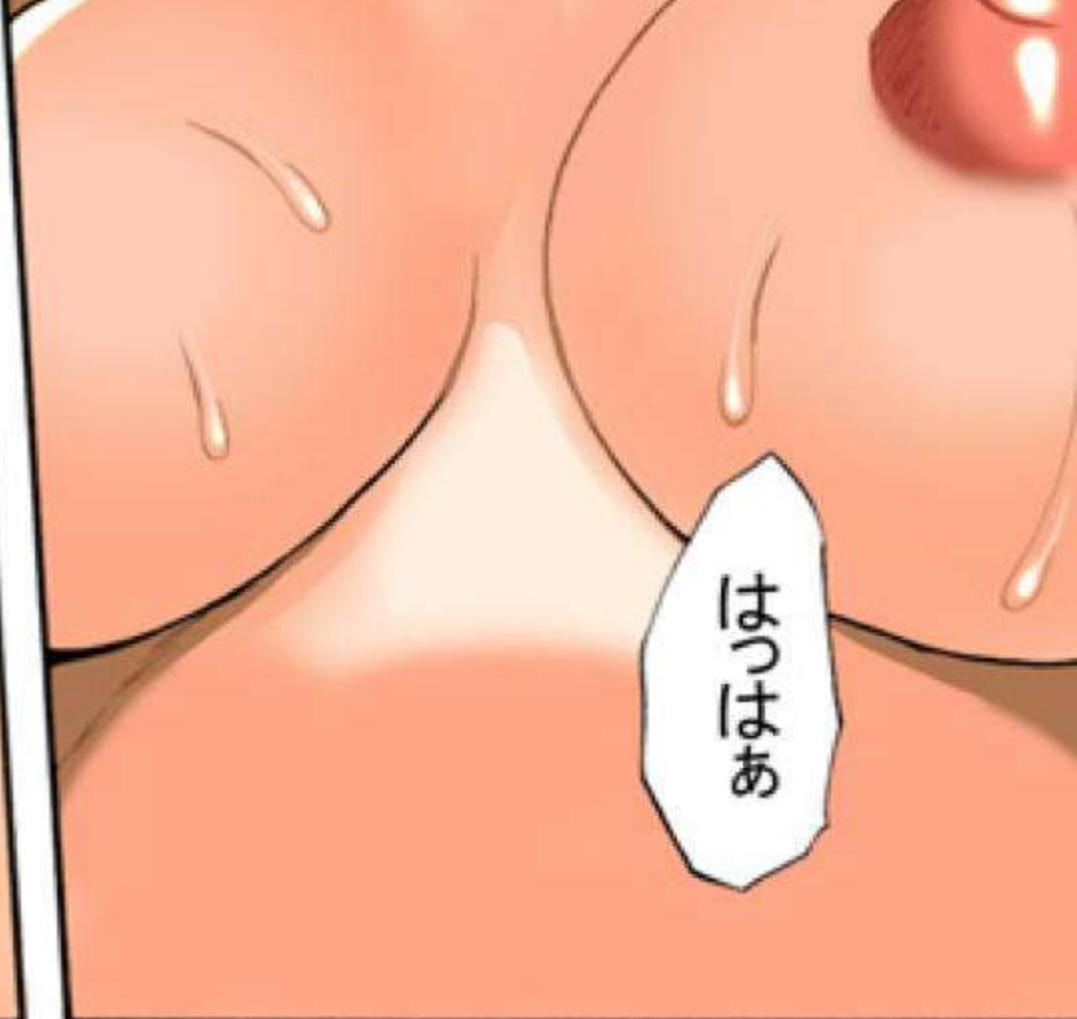
なんで「んな」と
あ…ああつ！

こんなのはレイプじゃない
何…考へて…るのよ！

やめつ…ああつ！
んんつ…ひぐづ！

あい
ああああああ
あ！







中庭を歩いていると
ルルーシュにキスを
求められ、私は
またも抵抗しないまま
唇を奪われた



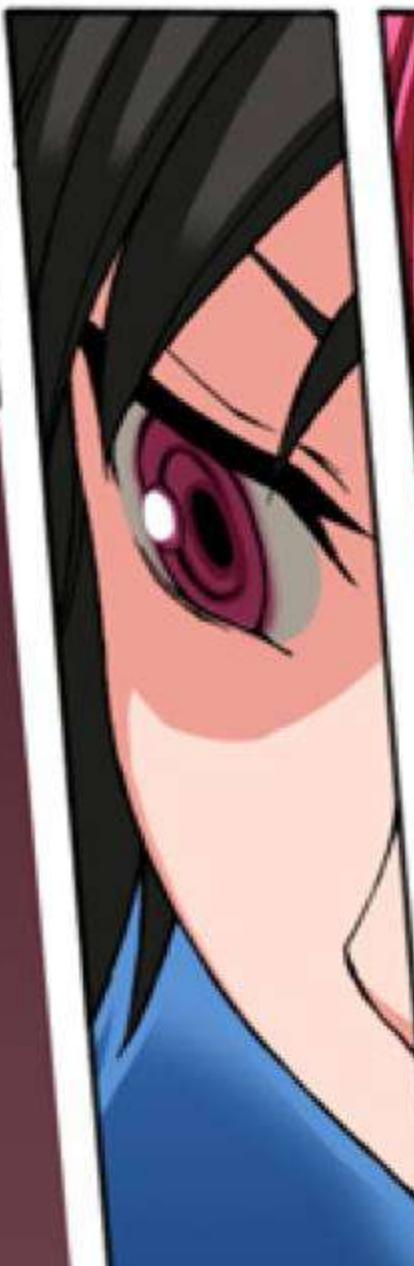
「ここでフェラチオしてられないか

は？

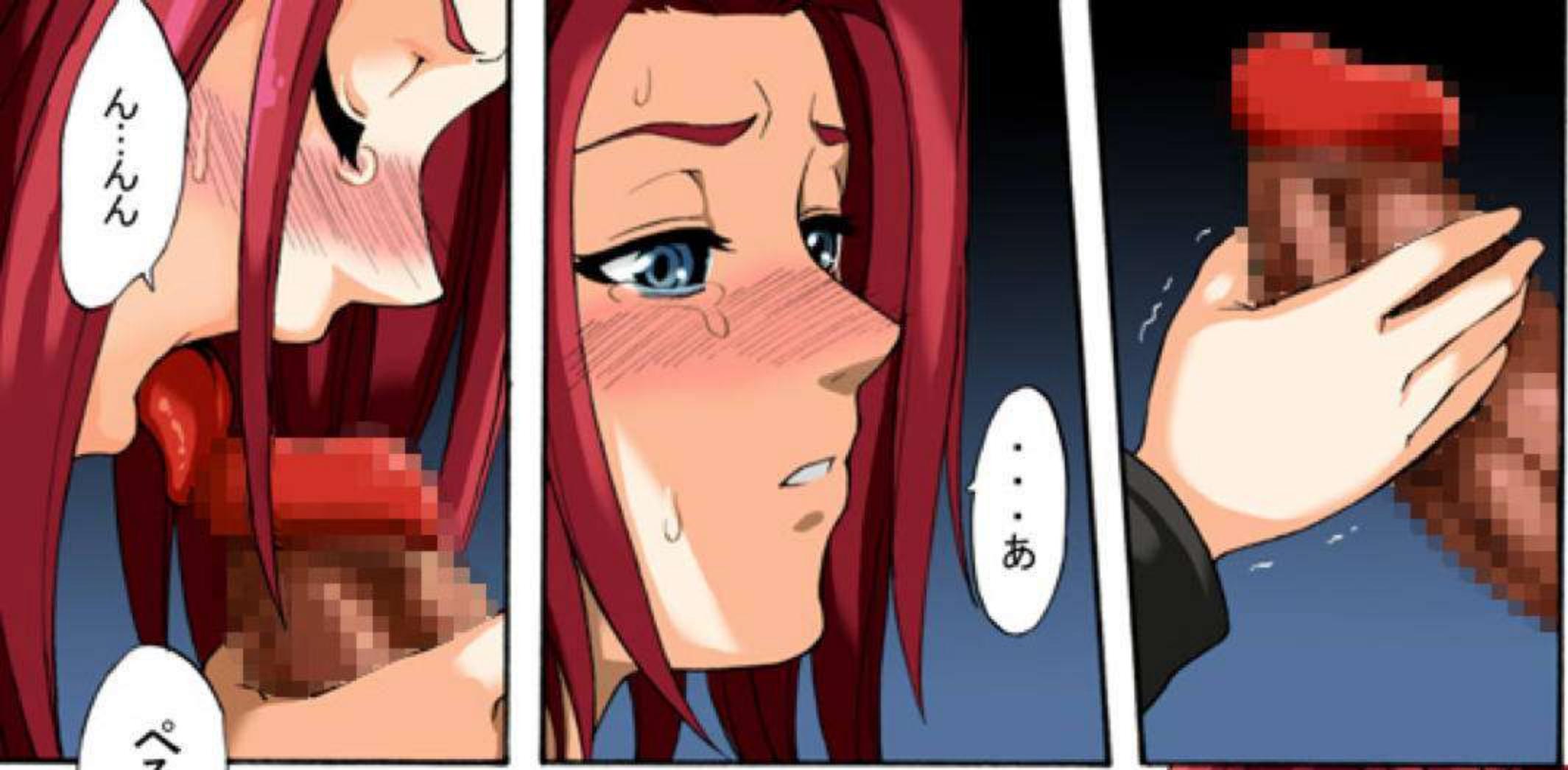
カレン

誰が見てるか
分からぬのに
そんなこと
出来るわけ！

何…言つて、授業が
始まつてるととはい
こんな中庭の
ど真ん中で













んんうあああ

あぶー!

アミーヤ

ブルル
ブルル

…つぱはー

はあはあはあ









あくつーんつー

あああん！
優しくして…もつと
優しくし…あつ…

ひきひきひき

ひきひき

うう…カレン！
もうイキそうだ

あうあう…ああ！
奥まで入ってる！

ああっ

いやあ！

また中にたう。ふり
注いでやるぞカレン！

あつ！

あああああああ

あああああああ



カレンは5分後だ
…分かったな

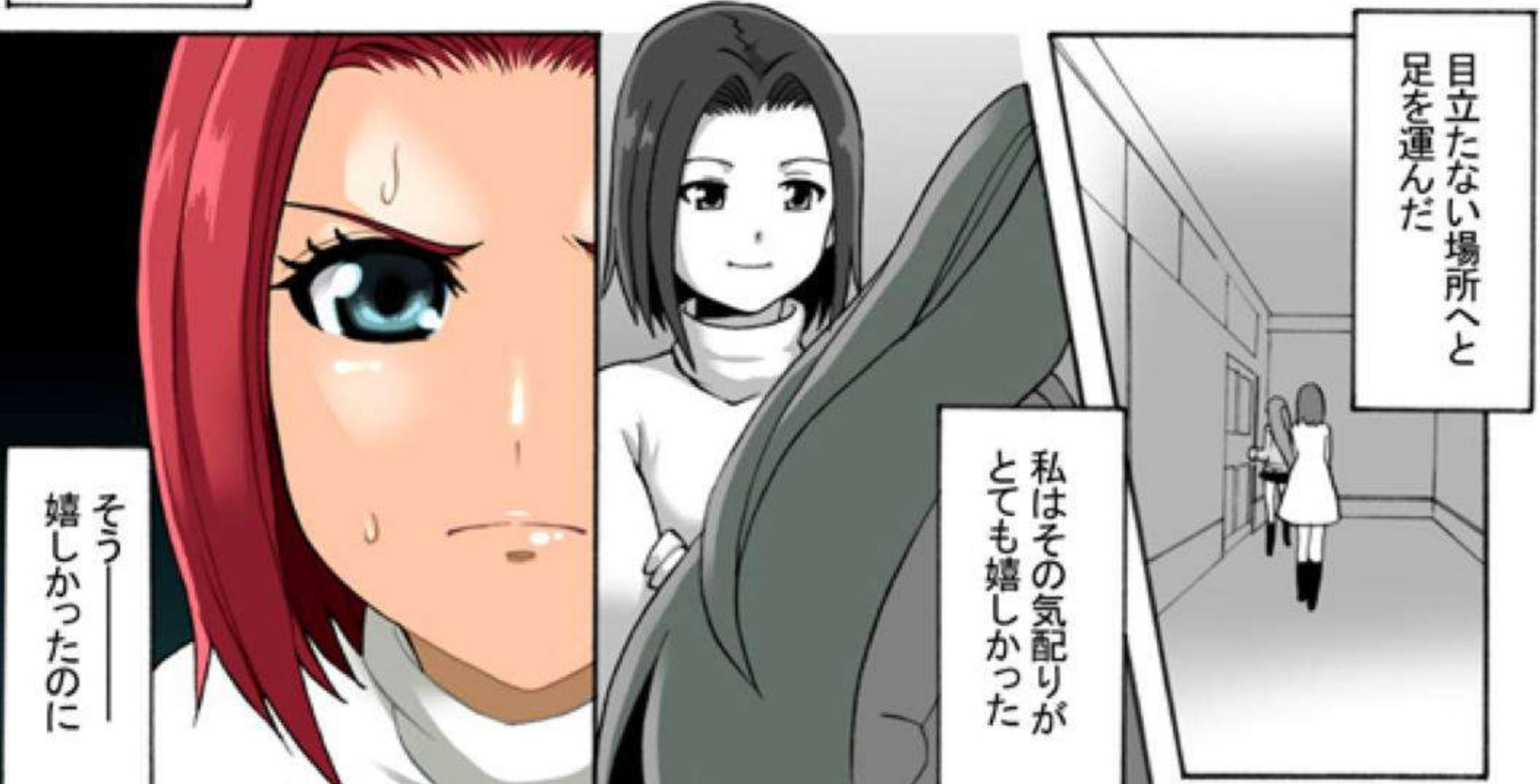
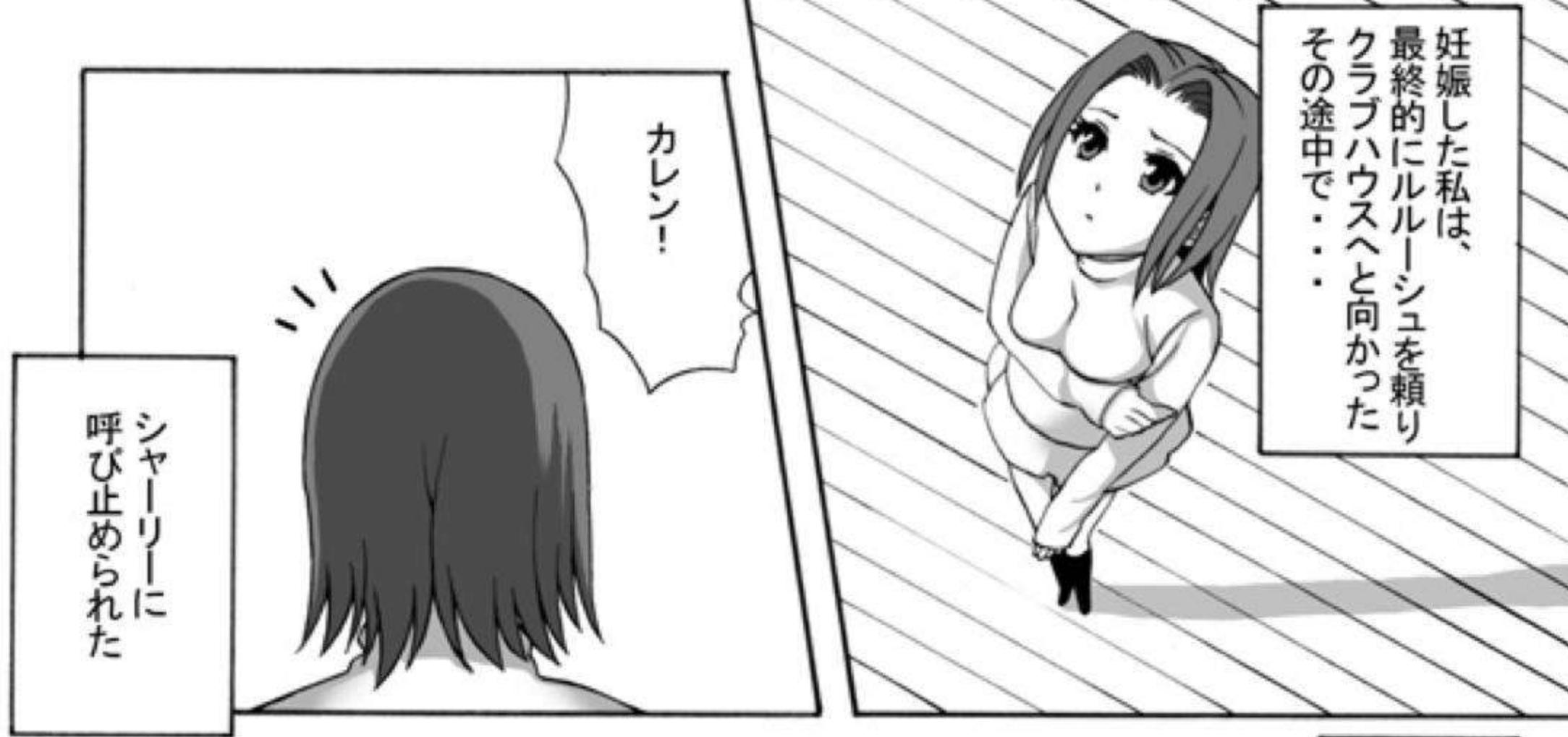
教室には時間を
すらして戻ろう

…ええ

私はルルーシュの
中出しを受け
妊娠してしまったのだ

もしかしたらと
思っていたことが
現実になってしまった





カレンって病弱
なんじゃなかつたうけ？

ふーん・ルルを誘つて
中庭でムリヤリ
セックスしてもらつて
あげく妊娠したんだ？

シャーリー見てたの？
違うのよ、あれは
ルルーシュの方から！

あつ！

！

あんたなんか!

ルルが相手する
わけないでしょ!

はあはあ

はあはあ

やめて
シャーリー!

あんたみたいな女は
こうしてやる

ハハハハハハハハ

ああつ!



え？

おお！
ファイストすげー

ああああああああ
私の腕が私の腕が私の腕が
入つて入つて入つて
くるくるくるくる
うううううううう
ココココココココ

入ったあ！

ひつ！

ひい！

ひひひひひひ

ひひひひひひ

あはは！
するりと入る
じゃない！

ほ、ほんとに違うの
シャーリ…いいつ！

ルルのチ●コ以外にも
いっぱいいっぱい
咥え込んでたんでしょ

あああ！

ビンタ

おおおおおー！
潮吹いたぜ！





チンポが中で
ぶつかつてる…

チ
ン
ポ

ああ…

チ
ュ
ン
シ
ン
ポ

ああん！

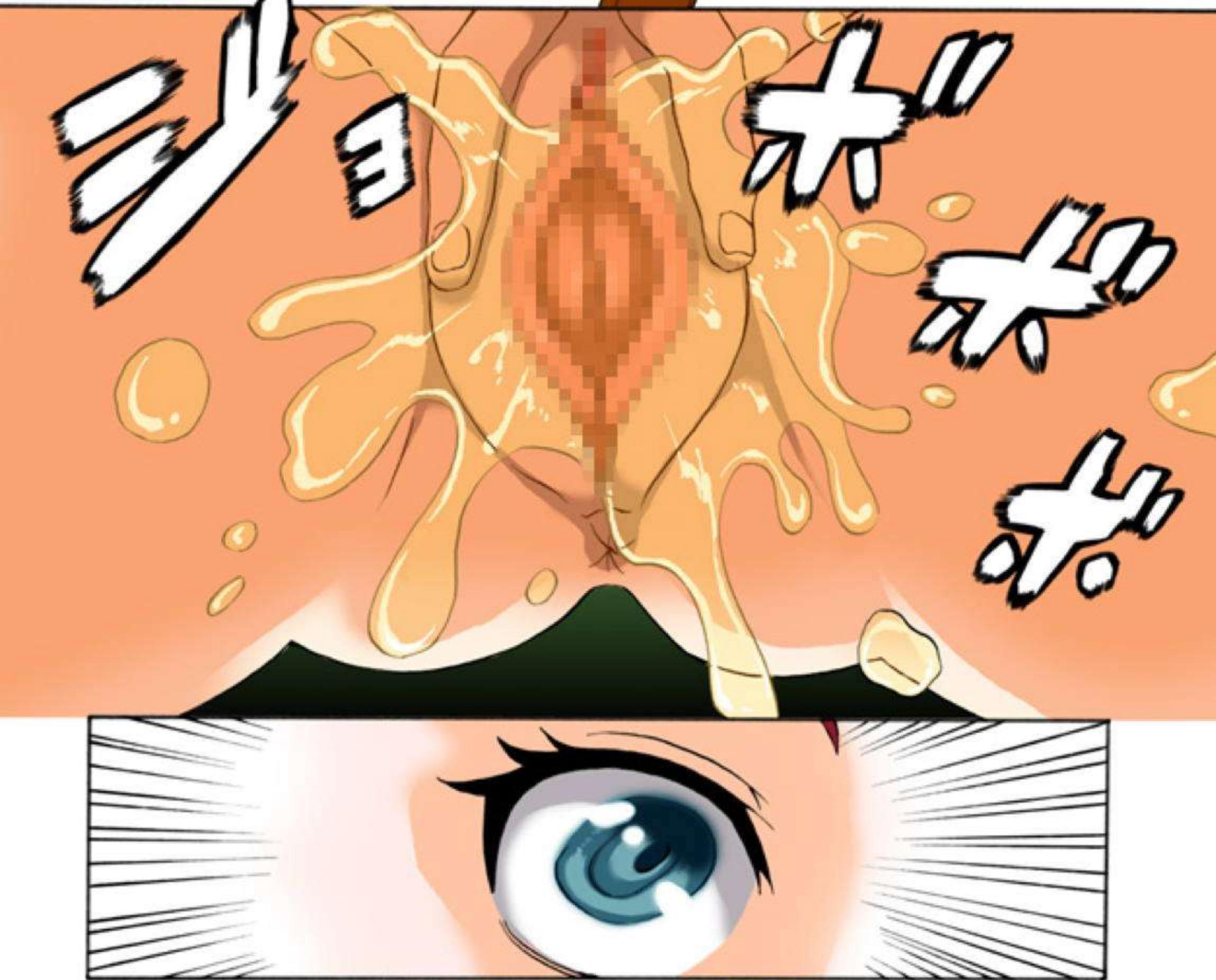


うっ…



うっく、ルル…シユ







今度からのどが
かわいたら言いなさい
飲ませてあげるから

アハハハ!
飲んだ飲んだ

ゴク
ゴク

そういう顔して
ルルの精子を
ねだつたんじよ

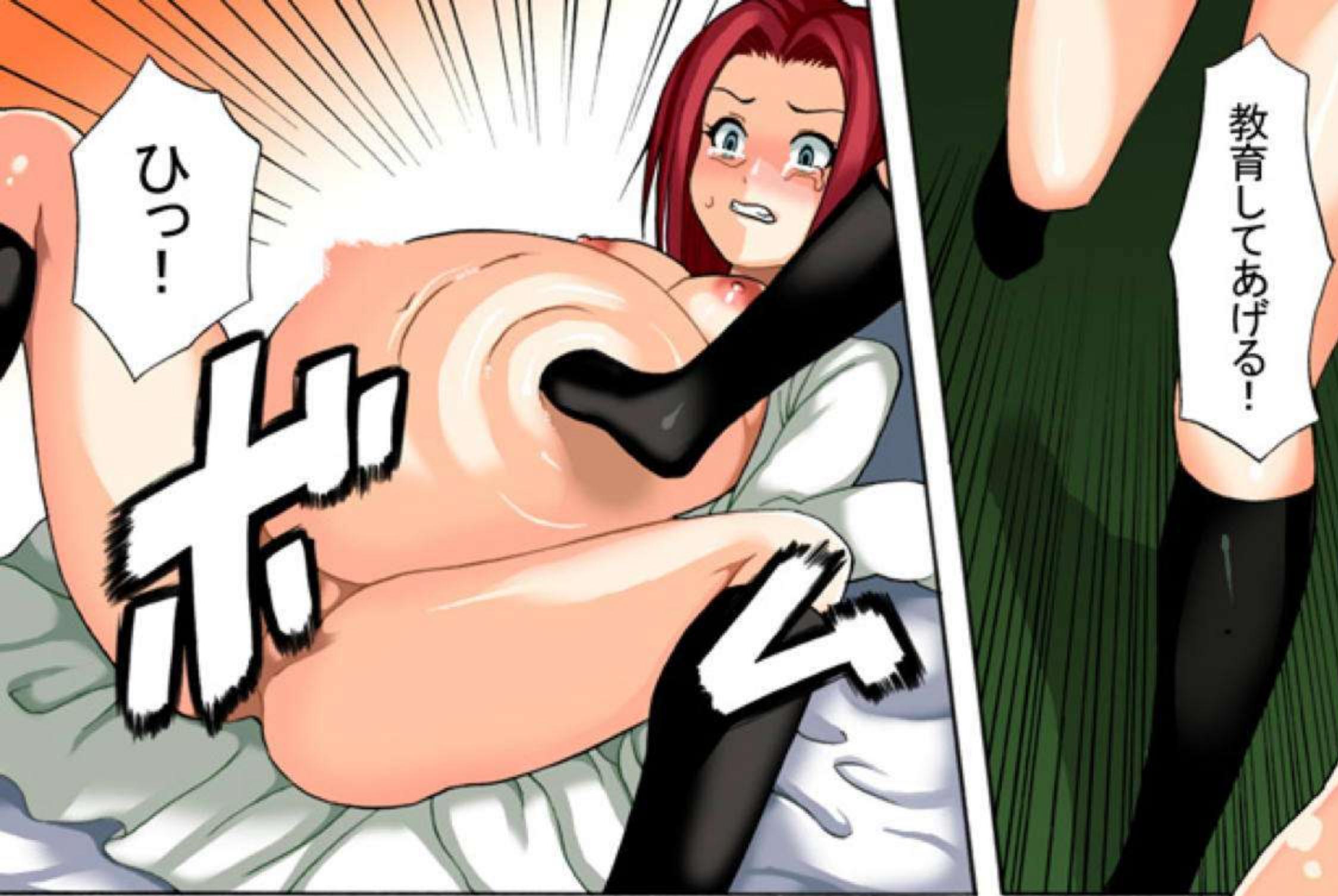
生まれてくる子供が
あんたみたいに
ならないよう

何…その日?

はあ

はあ

はあ



あんたのママはね！

ボムッ

精子を注がれることが
幸せでたまらない女なの！

自分から肉棒を求める
淫乱女なのよ！

チンポ欲しい欲しいって
目でうつたえてくるの！

ごめんね
守つてあげられ
なくて

ママのアバズレ遺伝子を
持っていないようその中で
祈ってなさい！

ボムッ

ボムッ

ム

ボム

何本でもいい何回でも
何日でもこの肉便器に
ブチ込んであげて！

全員で穴という穴に
挿入してあげて！

アハハハハハ！

うううう







あ…あ?

やっぱ、どう見ても
この体を放置なんて
出来ねーよな

あ?

あ…あなたたち
カレンのファンでしょ
だったらカレンに…

だからそんなの
関係ねえっての!

ああっー











ああ
ああ
ああめ
ああめ
あ

その後も執拗に犯されていたようだけどあまり覚えていない

意識が少し覚醒した

そう思つてると
私に挿入されてたものが
抜かれ、嫌な体温も
離れていつ温かく包まれた

ルルーシュが助けに来て
くれたらしい
でも、精液まみれの
私を見て幻滅するだろうな

私はルルーシュに抱きしめられていた

何度も何度も泣きながら謝っている

前にレイプまがいのことをしたことを謝つているのだろうか

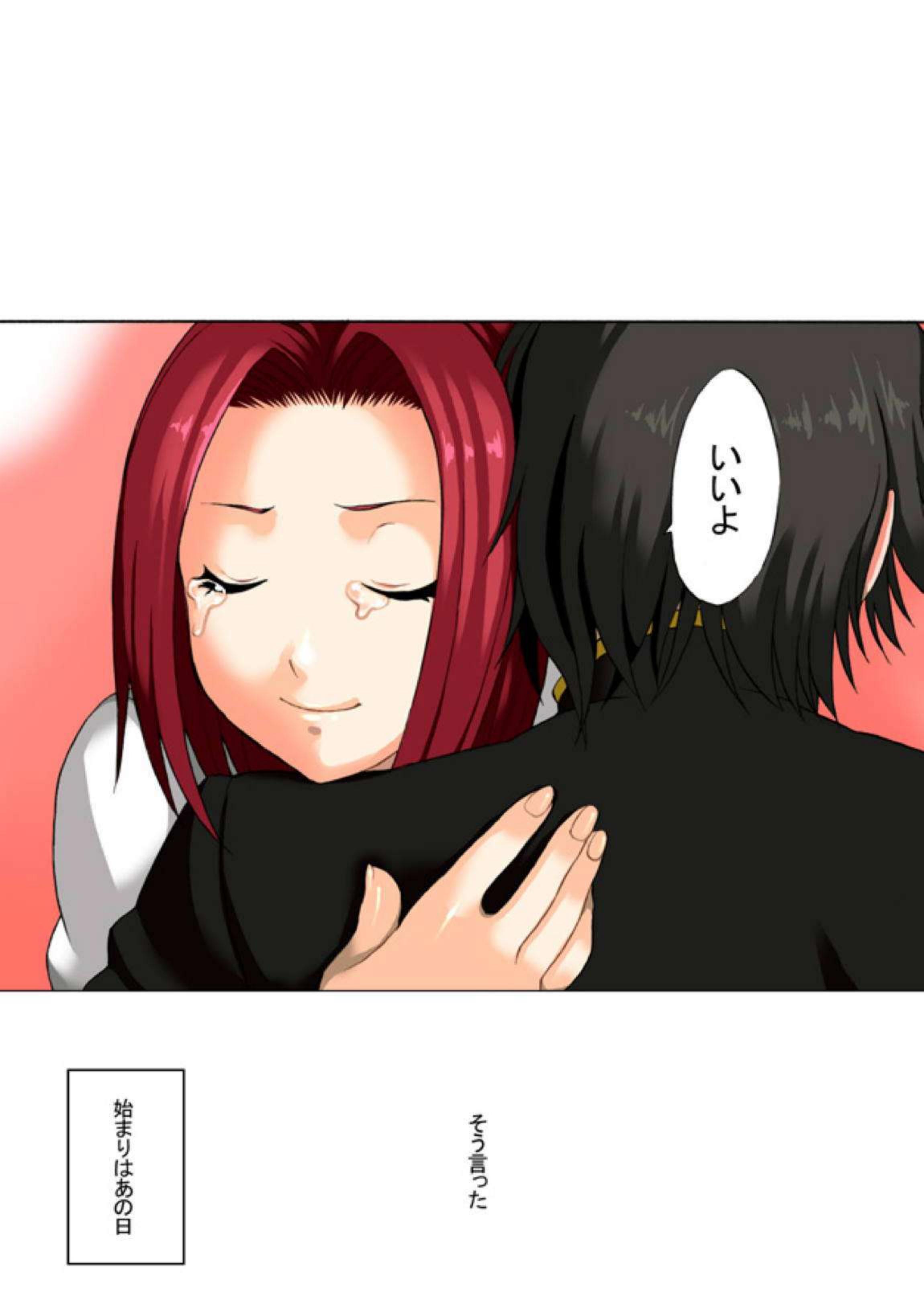
そういうばらヤリだつたけどルルーシュはなんだかいつもこんな顔だつたな

そつか：ほんとに私のこと好きで後悔してるんだね

抱きしめてくれる体温も彼の目から流れる涙もとても温かつたから

だから私は

すまない！



いいよ

始まりはあの日

やつ書いた



いきなりの告白に戸惑つたカレンだったがもちろん断られた

少し、いやかなり落ち込んでしまったが会長からカレンが生徒会に入ることになったと聞いて心が弾んだ

カレンをとにかく自分のものにしたかった
後で解除すればいいという浅い考えも持っていた

それが間違いだつたとその後、中庭で気付かされた彼女は本当に「ばまない口ではなんと言つても体が拒否しない

カレンの歓迎パーティでリヴィアルとシャーリーがシャンパンを開ける開けないでもめてしまつた際結局栓が抜け、飛び出した中身をカレンが浴びてしまった

俺は自分を偽って高圧的な態度でその迷いを押し込めカレンに欲望を押し付けた

それからカレンは学校に来なくなつた当然だろう

シャワー室で体を洗うカレンに着替えを持っていったときここで間違いを犯した

男としての衝動が抑えきれず言つてしまつたのだ

『言つことを聞け』と

人外の力『ギアス』を使って。

2回も身勝手に犯されればそれから死にたくなるほど目前から消えるのは当たり前だ自分が最低だとカレンのことばかりぐるぐると考える日々が続く中カレンを学校で見たという話を聞いた、しかもあのシャーリーに連れられて

シャーリー・フェネット

同じ生徒会のメンバーであるが

俺に對して異常な執着を持つている

俺がギアスを使ったのは

カレンに對してだけだが

ゲットウ壊滅戦の折
俺が敵に見つからなかつたのは
シャーリーの電話を着信拒否

してしていたからだ

あのときコール音が鳴り

兵士達に見つかつていれば
ギアスを使い
殺すしかなかつただろう

元凶となつたクロヴィスも

殺していたかもしぬない

もしシャワー室や

中庭での出来事を

シャーリーに知られていたら…
いや、知つてゐるだろう

迂闊だった

カレンのことを考えるあまり
シャーリーを警戒することを

失念していた

俺がどうなろうと
カレンには合わせちゃ
いけない相手だ

シャーリーが
俺を欲しいというなら
それで解決するはずだ

俺はスザクにギアスと
カレンにしたことにについては
相談していたので
一緒に探しでもらい

部屋を見つけ出し
ドアをブチ壊して
助けに入つた

そこで犯されるカレンを
目にして半年前の
自分の卑劣さを知つた

スザクが男どもを
蹴散らしていて
俺も殴らすには
いられなかつたが
きっと俺が殴る相手は
自分自身だろう

それはスザクに話をしたとき
殴られたことで分かつてゐる

俺はシャーリーを含め
ギアスを使って記憶を消そうと
思ったがそれもやめた
スザクにも止められた

これ以上、人でなくなれば
カレンの側にいれなくなる
俺がカレンを守るしかないのだから
俺はカレンの元へと向かい
謝ることしか出来なかつた

そんな無様に泣き謝つてる俺を
カレンは抱きしめて

「いいよ」

と言つてくれた
こんな自分に温かい言葉と
温もりを与えてくれた
俺はカレンを守るために
世界を変えてやろうと決めた

「ルルーシュ・シュタットフェルトか」

5年後、私はルルーシュに会った
あいつはカレンを守ると
決めた通り、カレンのまわりに
生き易い世界を作っていた
頑張っているようだ

「C.C.：お前、まだビザばかり
食べてるんじゃないだろうな」

「…お前の願いつてやつを
叶えてやれなくて
すまなかつたな」

「悪いが！ 太ってないぞ！」

「何をいまさう」

当時、私はルルーシュに
罪悪から逃れるために
自分にギアスをかけて
カレンにギアスをかけた」とを
忘れることも出来ると
言つたのだが

それではカレンに細かく注意を
払えないと罪を捨てない決意をしていた
ご立派なやつだ

「なんだ？」
「お腹をさすつてると
抗議してみた
正直、少し下つ腹が怪しい
お腹をさすつてると
ルルーシュは笑つていた

ルルーシュは偽りの幸福で
生きることを決めた
そこに入る余地なんかない
私はルルーシュを見た

「いや、平和な光景だと
思つてな」

「カレンは確かに言つことを
聞いてしまうが、不満があれば
不満な顔をするし、口は自由だからな
屋敷の範囲で生活するのには
困らないよ」

「ふん！」

実際ブリタニアは思いのほか
いい方向へと進んでいた

スザクとユーフェミアが
よくやつている

「ん？ ああ、分かつてゐ
る。カレンがあのとき
俺の側にいてくれたのは
単純にいつらよりプラスよりも
いたからだろう
絶対的に見ればマイナスの
場所に配置されてたろうさ」

少し思い出し自虐に入ったので
しまつたと思つたFFオロー

生活を共にする」とで
対処方も確立したようだ
しかし、と付け加えて

「コーネリアもユーフェミアの押しに
折れてしまいその勢いは
加速度的に増した

「娘におもちゃをせがまれると
買つてしまつのが難点だけどな」

まあ難関なのは

ブリタニア皇帝なのが

世界の勢いにはかなわないだろう
「じゃあファーストフードでボテトを
勧められたら間違ひなく買つてしまつた」

「はいはい」

「そいいえば娘の名前は
なんていうんだ?」

「ああ、俺は最初2人の名前を合わせて
カレー・シユにしようって言つたんだけど
大反対された」

「そりや反対だな
生まれたときから中年のおっさん
みたいな匂いがしそうだ」

「小学校あたりでその単語を覚えた
やつからいじめられそうだし
だからナナリーにした」

「・・・ああ、お前の妹だったか
ブリタニアの日本侵攻のとき
亡くなつたとか
言つてたんだつたか

「守るべきものがあれば

こいつは全力で行動するんだろう
今は幸せなわけだ

「カレンにそのことをいつたら
いいよつて言つてくれたからな
あ、もちろん不満顔なしでな」

「はいはい、『ちそつさまな』とだ」

「そいいえばC.C.、何か
用事があつたわけじゃないのか?
ただ様子を訪ねに来たわけじゃないんだろ」

「どうかな、ま、暇つぶし程度だよ」

「と意味もなくクールを装つておく
そんな言い方をされると

「様子見に来たんだよ! 悪いか!」

「とは言えないし

「・・・暇つぶしか様子見に来たのか
どっちなんだ」

「声に出しちゃつてるし!

「ま、どっちにしても
顔馴染が会いに来てくれるのは
嬉しいもんだよ」

「ふん、まあまた来るさ

「それと、時間がカレンを
癒してくれるわけじゃない
それを忘れるなよ」

「分かつてるさ」

「私はとりあえず
かつ」よさそうなセリフを残して
シユタツトフェルト家を後にした

しかし

「こんなはずじゃなかつたのに」

別の結末がヴィジョンとして
頭によぎつた私はそう呟いたが
その言葉と映像は
自分で反芻されずに
どこかへ消えていった

それは
どこか別の平行世界での
出来事だったのかもしれないが
C.C.はもう思い出すこともなかつた
足取りは軽い
幸せオーラを浴びすぎて
しまつたみたいだ

またいざれルルーシュに
会いに行こうと思うが
ピザの摂取量を減らそうか
真剣に悩んでしまう
うーむ、考えがまとまらない
ピザを食べて栄養を補給しよう
それからでも遅くない

私は鼻歌を歌いながら
ピザ屋さんに向かつた。

『こんなはずじゃなかったのに』
お買い上げありがとうございましたー!!

☆

コードギアスこれが出来ることには最終回も
放映済みですね。
楽しみなような怖いような。

☆

兎にも角にもまずはシャーリーファンに謝りたいです。
すごい子になってしましました。

お腹蹴ったり踏んだり
描きながらちょっと引いてました。
じゃあ、ネームを書き換えろよってな話なんですが
流れるようにシーンが出来たので仕方ないです。

☆

最初のコンセプトとしてはルルとカレンのラブラブ話を
作ろうって感じだったんですが、
人の領域を越えた力を使った人間を
素直に幸せにするのもどうかなー、と思って
わけわからない感じになっちゃいました。
エピローグを真剣に読んだ方すいません。
辻褄合わせの応酬ですね。

個人的には気に入ってはいるんですが、
今度はC. C. ファンにすいませんっていう展開ですね。
出るキャラ全員、自分の中の設定になってるという
同人らしいといえば同人らしい作品かもしれません。

☆

今回はオールカラーにしたんですが
どうだったでしょうか?
感想もらえると嬉しいです。

☆

ではでは、長々とお付き合い頂き感謝です。
サークル『シンヤんち』のシンヤでした。

まだ大丈夫だよな?
んと・・・下つ腹



